

# 品質向上 & 納期徹底

## 社内基準設けレベルアップ



東海林社長(左)と、教育担当の佐賀・安全マネジメント兼横浜営業所長代理

【神奈川】萬運輸(東海林憲彦社長、横浜市鶴見区)は2019年度(19年8月〜20年7月)、品質や納期に関する社内基準をつくり、レベルアップを図る活動を進めている。大手荷主の厳しい評価基準に合わせて社内基準を整備し、各現場に展開。また、2年以内に全ドライバーが「プロドラ3級」認定を取得することも目指す。ドライバー教育にはインターネットを使ったeラーニングを取り入れ、教育履歴や理解度をデータで確実に残す。

(吉田英行)

### 萬運輸

同社と取引のある多くの

大手荷主は、生産管理にお

いて安全・品質・コスト・

納期(SQCD)を重視

し、評価基準を策定。萬運

輸に対しては、定期的な監査や各拠点への巡回指導を通じてチェックし、点数評価している。

同社ではS(安全)につ

## プロドラ3級認定めざす 全運転者

いては、社内に安全専門部署を設け、運輸安全マネジメントに基づいた活動を進めている。Q(品質)やD(納期)についても担当部署を置いて取り組んでいるが、荷主の評価基準に従う「受け身」中心だった面も否めなかった。

そこで、Q・D面の一層の強化に向け、会議体や作業観察、パトロール、教育、管理者育成などについて、それぞれ基準や計画を定め、細目の実施規則も整備。各現場への展開を進めている。

最も厳しい大手荷主の基準に合わせて社内基準を統一することで全社レベルを引き上げ、他の荷主からの評価アップにもつなげるのが狙い。

また、外部認定で一定の評価を得たドライバーを育

成するため、日本トラックドライバー育成機構(JTDO、酒井誠代表理事)のプロドラ3級の認定取得を促す。実技をメインに、プロドライバーとして身に着けるべき安全確認の知識・技術を習得するもので、2年以内に全ドライバー100人の認定取得を目指す。

更には、eラーニングを活用したドライバー教育も実施。全拠点の点呼場にeラーニング用のパソコンを置き、ドライバーに受講してもらおう。「貨物自動車運送事業者が運転者に対して行う指導・監督の指針」の一貫的な指導・監督内容の12項目や社内通達事項、荷主別情報、トラブル事例などをeラーニングで行う。

これまでは、プロドライバーインストラクター資格を持つ佐賀建夫・安全マネジ

メント兼横浜営業所長代理が各拠点を巡回。ドライバーの帰庫後に集合教育を実施してきたが、全ドライバーに受講させるには時間がかかっていた。

また、受講後にドライバーにサインをもらうよりも、受講履歴が確実にデータで残るのもeラーニングの大きなメリットだ。

視聴覚を使いクイズ形式で学習するため、各ドライバーの理解度もチェックし記録できる。自社だけでなく、協力運送会社にも導入を促す。将来的には、Q・Dに関する社内基準もeラーニングに落とし込み、徹底を図る。

東海林社長は「Q・D基準の策定、外部認定を持つドライバーの育成、eラーニングによる教育の確実な実施を通じて、運送業界全体に意識の高いドライバーを送り込めるようにしていく」としている。